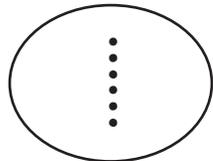
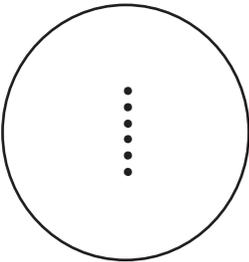
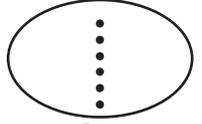
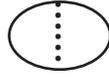
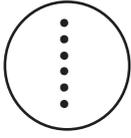


stay

gold





ゴゴゴゴゴゴッ。
ガガガガガガッ。

二〇一一年、三月十一日。

ビー、ビー、ゴゴッ。
ビビビーツ、ガガガッ。

大阪の旅行から帰ってきた翌日。

ゆっくりと一日が始まり、お昼を食べて、ちよつと買い物にでも出かけようかな、なんて思っていたとき。突然、私の世界が揺れたと思ったら、揺れていたのは日本の方だった。

世界じゃなくて、日本の方だった。

津波とか、原発だとかが危ないって耳にしたのは停電が直った三日後のこと。

電気が復旧した朝。テレビから流れた映像が、
悪趣味。

そう映ってしまう。



「この状況で何ができるの？」

何もできないよ。だからここにいるの。

「音楽は世界を救ってくれる？」

iPodもダンスの下敷きになって壊れちゃったよ。

「ねえ、どうやったらギター上手くなれる？」

それを私に聞いてくれた人はもういないよ。

それに、それに。

私、人に教えられるほどギター上手くないんだ。

「そんなの全然本物のロックじゃないよ」

本物ってなんだよ。何がロックなんだよ。

「こんなフェス、ちっともロックじゃない！」

「そんなこと言って、毎年来てるんじゃない。なんだかんだ言って実際は楽しんでるんでしょ？」

分かってるよ、それくらい。

日本が揺れて、私の世界は目まぐるしく変わっていった。

横浜スタジアム。

「周りが潰れたら絶対手を差し伸べてやってくれ。あと子供の手は離すなよ」

「大袈裟に聞こえるかもしれないけど、俺達、日本の為に集まったんだよね。本当なんだって。笑わないでくれよ、本当なんだよ」

分かってるんだ。

どんなに絶望したって諦められないことくらい。

終わった時間が、また動き出した。

★

あれから随分時間が経ったように感じる。

「そういえばあのマンガって随分新刊出てないよねー？」

「あはは、そういえば最近見ないねー」

「あの魔法使いのマンガでしょ？」

「そうそう、それそれ」

「見ないよねー」

「三冊くらいだったっけ？夢中で読んだんだけどねー」

「あはは」

「そういえば去年の紅白見た？」

「見た見た！ ふくしまーがーすきー♪ あの歌、私好きなんだー」

「熱いよねー。私、初めて見たけど好きになったー」

「良いよねー」

「エへへ」

私達は思わず笑いあった。



「ねえ、最近調べたんだけどさ」

「なーにー？」

「あのマンガの続き出るってー」

「あっ、そうなんだ！ 楽しみじゃん！」

「しかも何冊か一緒に出るみたい」

「くー、I Care Because You Do……c~」

「訳せるー？」

「ぜんぜん」

「あはは、だよねー」



横浜スタジアム。

「いつもはライブが終わったら死んでもいいって思ってたけど、今日は、今日だけは、ライブが終わった後に次のバンドが観てえ」

私は涙を浮かべていた。

隣のお客さんもみんな。

はげたおじさんも。

ジャージを着てた中学生も。

Tシャツで首にタオルを巻いた人達も。

みんな宙を舞ってた。

肩車したりサークル作ってモツシユしあったり。

知らない誰かでも一瞬で楽しみに来た仲間って空気感がすごい。

みんなが共犯者。

みんな、みんな、泣いていた。

「周りが潰れたら絶対手を差し伸べてやってくれ。あと子供の手は離すなよ」

歓声が飛ぶ。

ギターの音が鳴り響く。

「あー！ say goldギター！」

分かってたんだ。

どんなに絶望したって何も諦められないことくらい。

いつかどうにかなるって、さ。

ようは——。

湯ノ浦工工

stay gold

2011-12-31

akamirecords AKA-085